在学生の声／教員メッセージ

Voices

国際関係学部の学生は実際にどんなことを、どんなふうに学んでいるのか？
ゼミ、課外活動など、最新の情報、生の声をWebページで紹介しています。

www.ritsumei.ac.jp/ir/special/intro/

続きは Web ページでご覧ください

国際関係学とは何か？

国際関係学で何を学べるのか、教員の研究をひもとき、
豊富なエピソードで描き出していきます







PEOPLE of IR

キャンパスで、海外で活躍する
在学生・卒業生のインタビューサイト



開発途上国の魅力に惹きこまれアジアの国々を訪問した学生時代。訪問先で自身の原点ともなる経験をしたことが、国際協力や開発に携わりたいと考えるきっかけになりました。



国際関係学部とアメリカ、両方のフィールドを２年ずつ体験できるJDPでの学びと暮らしは、自分の関心や挑戦したいことを自由に広げていける貴重な時間でした。

模擬授業・オンライン講義シリーズ



立命館大学 国際関係学部
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL: 075-465-1211　E-mail: irpost01@st.ritsumei.ac.jp

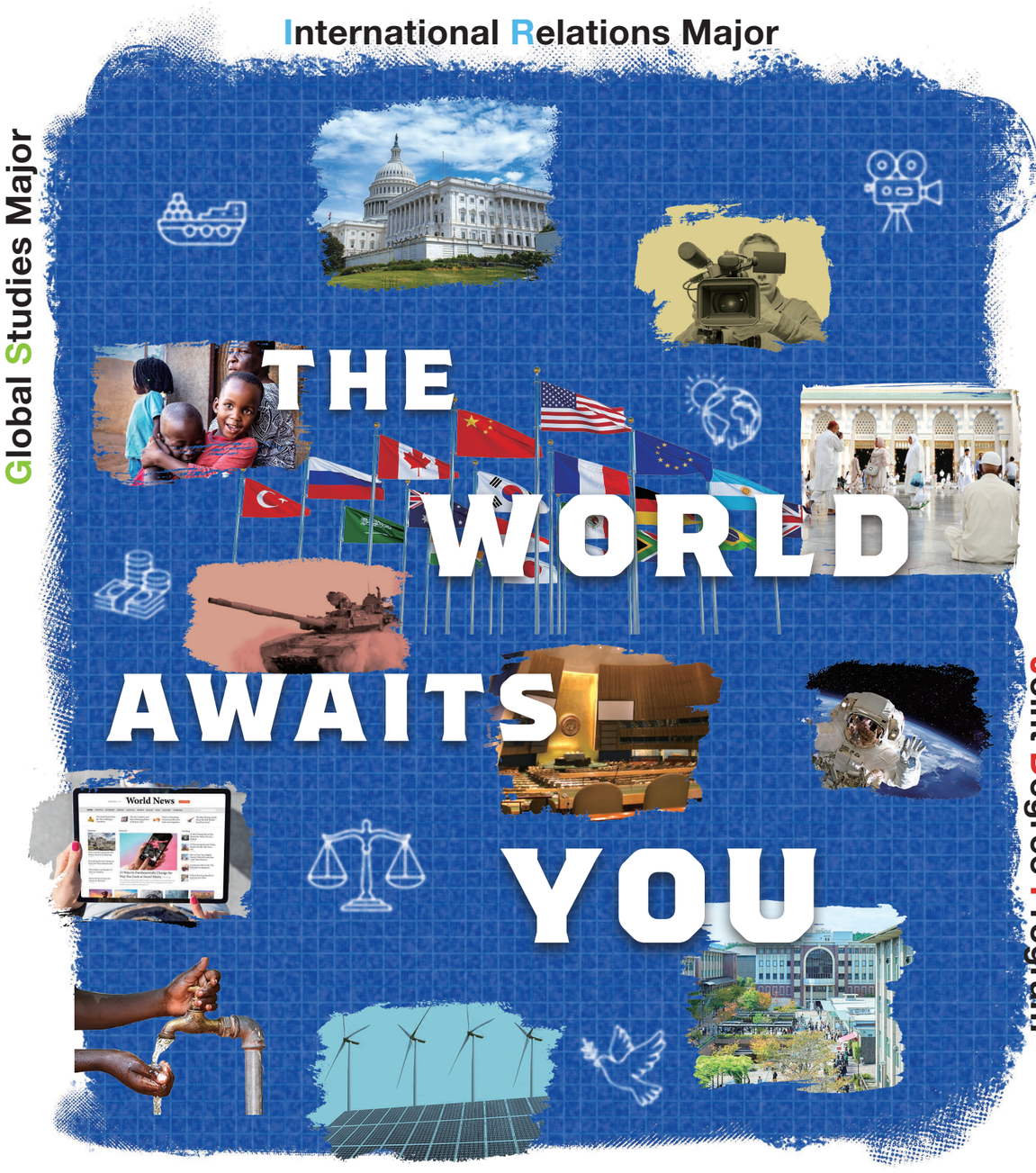
先生方のプロフィール、先輩のメッセージなど
最新の情報はこちら
www.ritsumei.ac.jp/ir/

Futurize.
きみの意志が、未来。

RITSUMEIKAN UNIVERSITY 立命館大学

国際関係学部

College of International Relations | Ritsumeikan University



世界が、あなたを待っている。

Message from Dean

学部長メッセージ

最先端を走り続ける。



国際関係学部 学部長
森岡 真史

21世紀の四分の一が過ぎた現在、通信・輸送・移動の手段は高度に発達し、モノや人、そして情報が国境をこえて膨大な規模で往来しています。市場では、企業や自営業者が世界各地から供給された原材料や燃料を活用し、多種多様な商品を生産しています。

しかし、国や地域間の結びつきや相互依存がこのようにかつてないほど深まっているにもかかわらず（あるいはそれゆえに）、現代の世界は多くの課題に直面しています。ウクライナやパレスチナのガザ地区をめぐる破壊的な戦争では、多くの兵士や一般市民が犠牲となり、国際平和が揺らいでいます。世界経済は中国やインドなどの新興経済を中心に成長を続けていますが、国内および国家間の貧富の格差は依然として深刻であり、一部の国々では紛争や統治の混乱が続いています。国際的な移民の増加は、各国の民族構成を多様化させると同時に、摩擦や対立を引き起こす要因にもなっています。さらに、急激な経済成長の副産物としての地球規模の気候変動は、人類にエネルギー利用のあり方の根本的な転換を迫っています。

これらはすべて、**多くの国々が関わる「グローバルな」問題**であると同時に、**各国の政府・企業・市民、そして国際機関や国際組織が協力して取り組むべき「国際的な」課題**でもあります。**これらの問題を分析し、その背景や原因を理解し、改善・解決の方向を探るためには、政治学・法律学・経済学・社会学・歴史学などの既存の学問領域（ディシプリン）を横断した研究が必要**です。**国際関係学**は、こうした**伝統的なディシプリンを基盤としつつ、現代の「世界」を構成するさまざまな要素の相互関係に焦点を当てる比較的新しい学問分野**です。世界の国々・地域はそれぞれ独自の言語・宗教・文化を持つため、国際関係学は地域研究の要素も包含しています。

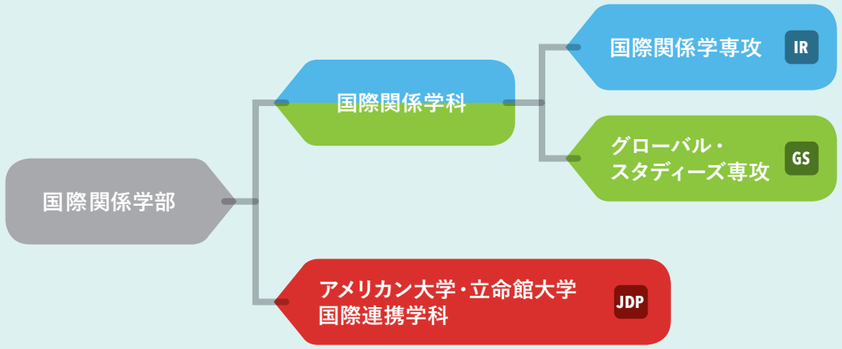
立命館大学国際関係学部は、この国際関係学を体系的に学び、卒業後はグローバルな視点をもって国内外で活躍する人材を育成することを目指しています。本学部のカリキュラムは、(1) 国際関係学の諸分野を学ぶ**専門科目**、(2) 世界各地域を深く理解するための**地域研究**、(3) 実践的な英語力と国連公用語を含む**多言語教育**の**三本柱で構成**されます。本学部は、三つの柱のそれぞれを高い水準で提供できる、すぐれた教員陣を揃えています。本学部に入学した学生は、この**「理論×地域×言語」の相乗作用を通じて、入学から卒業論文の執筆に至る学びの過程で、国際関係学に関する幅広い知識、思考力、分析力、そして提案力を身につけることができます**。

本学部は、ベルリンの壁崩壊の前年である1988年の設立以来、日本における国際関係学の先駆けとして発展してきました。外国の大学との交流も盛んで、多数の留学生の受け入れや派遣は本学部の伝統の一つです。2011年には、日本語で学ぶ従来の国際関係学専攻（IR専攻）に加え、英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻（GS専攻）を新設しました。さらに、2018年にはアメリカン大学・立命館大学双方の国際関係学部で学び、「共同学位」を取得できる国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）を設立しました。現在、本学部には、日本人学生と世界約30の国・地域から集まった国際学生が在籍し、日本の美しい古都である京都で交流しながら切磋琢磨しています。

学部設立から35年以上を経て、本学部の卒業生はすでに9000人を超えています。多くの卒業生が、日本と世界各国で、民間企業、公務員、国際機関、研究教育機関、国内外のNPOなど様々な業種で、学部時代の学びを生かして活躍しています。私たちはこれからも、国際関係学の研究と教育を通じて、グローバルな視点を持つ人材の育成に力を注いでまいります。皆さんが立命館大学国際関係学部に関心をもち、私たちとともに国際関係を学び世界へ羽ばたく第一歩を踏み出すことを願っています。

Departments, Majors & Programs

学科・専攻・プログラム



IR GS 国際関係学科

国際関係学部は、**世界各地の学生が高い志を持って集う多文化共存の空間**です。多様なバックグラウンドを持った、学生、教授陣が集っています。国際的に教育・研究・社会貢献を行う教員、国際社会のさまざまな分野で活躍してきた客員教授、そして、日本で数人しかいない珍しい専門領域を持つ教員たちから新たな発見や閃きを得ることができるでしょう。**多文化が融合する空間で学び、国際的な感覚と知性を磨き、世界が求めるグローバルな見識と行動力を養います**。現代の国際社会が抱える問題を多面的に探求し、既成概念にとらわれずに自分の頭で考え、問題解決に挑みます。

主に**日本語で学ぶ国際関係学専攻と英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻**。多くの科目で、同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講しています。クロス履修システム（P.11）を活用することで、国際関係学専攻の学生は関心ある科目を英語で学ぶことができ、グローバル・スタディーズ専攻の学生は日本語による科目を受講することができます。

JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

1994年、国際関係学部は日本国内で初めてDUDP（デュアル・ディグリー・プログラム）を導入しました。そこからスタートしたアメリカン大学との長期に渡る教員の相互派遣や教員および職員間の交流を経て、2018年には、DUDPをさらに進化させた**学部レベルでは日本初となる国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）を**

アメリカン大学と共同で開設しました。

プログラムでは、西欧中心に築かれた学問体系である**「国際関係学」を、さらに日本を含む非西洋の視点を取り入れ発展させた「グローバル国際関係学」の修得を目指して京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、単一の共同学位（BA in Global IR）を取得します。**



IR AT A GLANCE ｜ 数字で見る国際関係学部



















APSIA
Association of Professional Schools of International Affairs

APSIAとは、国際関係学が取り扱う諸問題に関する教育の実施と、この分野における高度専門知識を持つ人材の養成を目的に設立された非営利組織です。ハーバード大学、コロンビア大学、エール大学、アメリカン大学などが加盟しており、日本からは、立命館大学国際関係研究科が唯一の正規会員として加盟しています。

2026年5月時点の実績を掲載しています。

Our Faculty and Specializations

国際関係学とは何か？

これは関連する学問分野や研究トピックの一部を示した国際関係学キーワード群です。キーワードも、キーワード同士のつながり方も、無限の組み合せがあるでしょう。

これらの領域を広くカバーする教員があなたの「国際関係学」をサポートします。

JDP AU-RU Joint Degree Program

IR GS 国際秩序平和 Governance and Peace Cluster

IR GS 国際協力開発 Development and Sustainability Cluster

IR GS 国際文化社会 Culture and Society Cluster

IR GS 国際公務コース

外交
日米関係
米中時代
アメリカ
経済摩擦
TPP
中戸 祐夫
北朝鮮
紛争解決
憲法９条
平和学
相星孝一
FRENCH Thomas William
イギリス
冷戦
南野 泰義
園田 節子
君島 東彦
五十嵐 優子
O'MOCHAIN Robert
佐古 孝義
日本語教育
翻訳通訳
奉 鉉京
三井 久美子
言語
異文化コミュニケーション
英語教育
外国語教育
KUNSCHAK Claudia
文化人類学
宗教
ジェンダー
山口 智美
鳥山 純子
ペルー
フィリピン
家族
ラテンアメリカ
辻本 登志子
国際移住
RAJKAI Zsombor Tibor
英米文学
映画
ゴジラ
池田 淑子
SF
TAILLANDIER Denis
Japan Studies
文化外交
佐伯 千鶴
SMITH Nathaniel M.
都市学
政治活動・運動
クリエイティブ産業
カルチュラル・スタディーズ
大山 真司
マスコミ
メディア
テレビニュース
ジャーナリズム
白戸 圭一
KOGA BROWES Scott Philammon
インターネット
SNS
韓国
金 友子
チャイナタウン
アジア
日中比較文学
中国
スマートフォン
経済成長
IT 産業
孫 軍悦
中川 涼司
KIM Viktoriya
日本サブカルチャー
日系アメリカ人
CHEUNG Yukman
社会学
ナショナリズム
移民
国際結婚
松坂 裕晃
トランスナショナリズム
益田 実
フランス
人種
国際政治
中本 真生子
アフリカ
岩田 拓夫
世界社会論
地方分権
グローバリゼーション
国際関係理論
核兵器
軍縮
安高 啓朗
国際政治
足立 研幾
福海 さやか
規範
NGO
市民社会
民主化
イスラエル
シリア
中東
国際組織犯罪
麻薬
テロ
海賊
イスラーム
末近 浩太
DANISMAN Idris
インドネシア
平和構築
フィールドワーク
少数民族
地域研究
本名 純
CHADHA Astha
東南アジア
カンボジア
タイ
雨河 祐一郎
HO Thanh Tam
メコン地域開発
国境
人口
食料
農業
農村
PKO
人間の安全保障
ミャンマー
石川 幸子
ASEAN
松田 正彦
フードチェーン
United Nations
EU
地域統合
東アジア共同体
台湾
星野 郁
渡辺 宏彰
IMF
ドル
金融危機
ユーロ
EU
貿易
通貨
森岡 真史
経済理論
経済政策
アベノミクス
坂木 雅彦
矢根 逼佳
国際経済
外国直接投資
多国籍企業
開発経済学
王 通
嶋田 晴行
芦 宛雪
国際機関
小林 主茂
持続可能な開発
UNPKO
植松 大輝
渡邉 松男
貧困削減
ODA
フェアトレード
田川 昇平
国際協力
平和構築
エネルギー転換
環境保全
技術移転
地球温暖化
林 大祐
再生可能エネルギー
原子力
生物多様性
金児 真依
国際人権法
先端科学
ナノテク
クローン技術
越智 萌
西村 智朗
国際法
宇宙法
北村 理依子
国際刑事司法
川村 仁子

……国際関係学の研究分野や研究対象の一例
……国際関係学部の教員

＊2026年4月1日現在の所属教員

多文化が融合する空間で学ぶ。

国際関係学科

Department of International Relations

国際関係学専攻

International Relations Major

IR

主に**日本語で「国際関係学」を学びます**。2026年度カリキュラムより、グローバル・スタディーズ専攻と同様「国際秩序平和」、「国際協力開発」、「国際文化社会」の3つの分野で専門科目が構成され、より学際的・自由に科目を選択できるようになります。**専門科目**に加えて世界各地の**「地域研究」科目を体系的に学び、国際社会が直面する多様な課題に挑む力を養います**。また、「クロス履修制度」により、英語で開講される科目をグローバル・スタディーズ専攻の学生と共に学ぶことができるなど、グローバルな学習環境が整っています。





グローバル・スタディーズ専攻

Global Studies Major

GS

主に**英語で「国際関係学」を学びます。学年の半数以上が海外からの留学生**です。日本・京都に居ながらにして海外の大学と同様の環境で4年間を過ごします。**約30カ国・地域から学びに来ている留学生と切磋琢磨しながら、高度な英語運用能力を養い、多様な文化や価値観に触れることで真の国際コミュニケーションや文化理解の機会を得る**ことができます。「クロス履修制度」により、日本語で開講される科目を国際関係学専攻の学生と共に学ぶことができるため、関心のあるテーマについては日本語開講の科目を履修することも可能です。





国際秩序平和

Governance and Peace Cluster

国際社会のダイナミズムを学び、新しい国際秩序のあり方を探る

国際秩序の歴史と現在、そして新時代の展望を、国際政治・国際法を中心とする分野から総合的に学修します。安全保障・人権・ジャーナリズムなど多様な知識を深め、国際問題を解決するための新たな手法をさまざまな観点から探ります。

- 国際政治
- 安全保障
- 国際政治経済
- 途上国政治
- 国際法
- 憲法
- 国際ジャーナリズム
- Security Studies
- Comparative and Global Governance
- International Organizations
- Peace and Conflict Studies
- Global Political Economy
- International Law
- International Human Rights

国際協力開発

Development and Sustainability Cluster

持続的な社会と経済発展を両立する国際協力・開発援助のあり方を学ぶ

途上国の現状や国際協力・援助など、国際的な社会・経済発展の条件や貧富の格差の問題を実践的に学修。政府や国際機関による国際協力だけでなく、企業やNGOなどの活動も視野に入れながら諸問題の解決策を探ります。

- 国際協力
- 地域開発
- 環境
- 国際経済
- 国際金融
- 経済政策
- 貧困
- Global Civil Society and Development
- Global Environmental Issues
- Macroeconomics
- Microeconomics
- International Trade and Investment
- International Finance

国際文化社会

Culture and Society Cluster

高度な異文化理解力を身につけ、共生社会の実現にアプローチ

グローバル化が進む現代において、多様な文化や価値観を尊重しあい、共生社会を育てて行くことは重要なテーマです。さまざまな文化や社会を比較考察し、多文化共生の道を探ります。

- 多文化社会
- ジェンダー
- 移民
- 日本文化・社会
- メディア
- 現代社会
- 宗教
- 表象文化
- Race and Ethnicity in the Modern World
- Media and Society
- Global Sociology
- International Migration
- Topics in Identity

国際公務コース

国際関係の学びを国内外の行政キャリアへと繋ぐ少人数教育

国家公務員や地域を支える地方公務員、国連をはじめとする国際機関などを目指すIR専攻・GS専攻の学生を対象とした科目を提供します。行政を担うキャリアをめざす学生が切磋琢磨しながら、グローバルな公共政策や国内外の行政に関する実務と理論を学びます。希望者は2回生春学期からコースに参加し、2回生秋学期から志望するキャリアパス（公務員志望・国際機関志望）に応じた科目を受講していきます。

科目（例）

- 国際公務セミナー
- 民法
- Professional Workshop
- 国際公務研究A
- 行政法
- タイ・バンコク国際機関研修
- 国際公務研究B
- 財政学

国際政治の中枢で学ぶ。

アメリカン大学・立命館大学 国際連携学科

American University-Ritsumeikan University Joint Degree Program

JDP

アメリカン大学と立命館大学が共同で開設する国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）では、**京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、共同学位（学士「グローバル国際関係学」）を取得**します。世界の動きを肌で感じながら、専門分野に加えて語学力を伸ばし、国際感覚を培うことができます。アメリカン大学は、**国際関係学において北米6位（学部）***。1963年の卒業式では、ケネディ大統領が「平和の戦略」の演説を行う等、オバマ大統領をはじめとする歴代の大統領が訪れる大学です。日本の伝統文化と革新の気質が融合する京都と、激動の政治の中心に位置するワシントンD.C.。二つの都市での学びは、歴史・文化そして国境を超えた人と人の交わりを通じて、世界中の人々とのネットワークを築き、グローバル・リーダーの精神を育みます。

＊“EduRank (2026)”のランキング





アメリカン大学とのジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）

JDPは、異なる二つの大学が一つのカリキュラムを編成し、卒業時は共同で学位を授与するという、日本の学部では唯一のプログラムです。JDPの学生は、アメリカン大学および立命館大学の両大学に入学することになりますので、入試の時点から両大学が共同で審査を行います。両大学の基準を満たす学生が入学できるプログラムです。

アメリカン大学・立命館大学 両大学の学生としてアメリカ・京都で2年ずつ学ぶ

JDPの学生は、**入学時から両大学に在籍するため、4年間を通して両大学のシステムやサポートプログラムを活用できます**。アメリカン大学で2年間、立命館大学で2年間、学びの場所を変えて学生生活を過ごします。キャンパスが変わっても一貫した一つのカリキュラムのもと、両大学で体系的に学びます。

	1年目		2年目		3年目		4年目	
	1 SPRING	2 FALL	3 SPRING	4 FALL	5 SPRING	6 FALL	7 SPRING	8 FALL
	立命館大学	立命館大学	立命館大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	立命館大学
立命館大学 HOME	Core/Foundation/Cohort Courses					Instruction linked to Seminars and Senior Capstone Program		Senior Capstone Program (Seminar)
	Academic Skills (Building Foundations of Academic Writing)		Research Methods					
	Japanese/English (if necessary)		Thematic and Regional Courses					

学修・キャリア支援プログラム

JDPは、学生が4年間で二つの大学で学び、一つの学位を共同で授与されるこれまでにないプログラムです。JDPでは、学生が着実に充実した4年間を過ごすため、様々なサポートプログラムを用意しています。米国の大学に直接進学する場合に比べて、英語運用能力の向上サポートや進路・就職面のキャリア支援など、日本の大学ならではのサポートを受けることができると同時に、アカデミックアドバイジングといった日本の大規模大学では珍しい、国際基準の学習サポートが両大学のスタッフにより実施されます。

卒業時に両大学の共同単位を取得

卒業時は両大学連名の学位を手にすることができます。**アメリカン大学および立命館大学の卒業生として、卒業後のキャリアを歩むことができます**（アメリカン大学・立命館大学両大学の卒業生のネットワークを活用することが可能です）。







Timeline

充実した学部での学びを実現する上で、4年間の学びの流れを理解し、プランニングする。
そして、どのように自分だけの学びとキャリアにつなげていくか思い描く。
国際関係学部でどのような4年間を過ごしていくかは、あなたの無限の発想力と行動力次第。



4年間の大学生活の設計

4年間の学びのプランを立てましょう。国際関係学部での学習、留学、課外活動、資格取得、就職活動などについて、4年間の中でいつ、どのように取り組むのか。現時点での目標を明確にし、スケジュールを立てましょう。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）

2回生全員が参加する実践型授業です。環境問題や核開発問題など年毎に統一テーマを決め、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアの役割を演じるロールプレイで国際交渉を行います。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力を磨き、リーダーシップを育む機会でもあります。



専門演習や専門科目を通じて専門的知見を深める

国際関係学部の学生は3回生から卒業まで、「専門演習（ゼミ）」を履修します。2年間、同じ担当教員のゼミに所属し、自分の興味ある分野を、興味を同じくする仲間と共に学び、学修の集大成である卒業研究の作成に必要な力を身につけていきます。

キャリア支援教育

国際関係学部の学生に特化した、就職活動・キャリア・働き方を考える「キャリア・ワークショップ（ビジネス・メディア）」、国際機関を目指す学生向けに、英語開講の「Professional Workshop」を開講し、卒業後のキャリア形成を見据えた正課科目を開講しています。



就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学のキャリアセンターの専門スタッフが一人一人の学生を丁寧に支援します。

国際関係研究科の詳細はこちら
www.ritsumei.ac.jp/gsir/





Start!

1回生

- グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）の履修
- 就職活動
- 大学院進学準備

1回生 春学期	1回生 秋学期	2回生 春学期	2回生 秋学期	3回生 春学期	3回生 秋学期	4回生 春学期	4回生 秋学期
● 基礎演習	● 国際関係学の基礎			✸ 専門演習（ゼミ）の履修		✸ 卒業研究の作成	
					● オープンゼミナール		



ゼミ形式で、大学での学び方や研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。

国際関係学を学んでいくうえでの基礎知識や、2回生以降、国際関係学を深めるための道筋を学びます。





2回生

専門科目の学びがスタート 国際関係学の基盤を築く

専門科目の履修、専門的な英語運用能力を養うための科目の履修が始まります。これらの科目の履修、授業外での様々な活動を通じ、国際関係学の基礎を習得しましょう。

オープンゼミナール

毎年開催されているゼミ単位のプレゼンテーション大会です。ゼミ内で結成したグループで数ヵ月準備した研究成果を、オーディエンスの前で発表します。オーディエンスはこれからゼミを選択する学部1・2回生や卒業生（社会人）、企業の人事担当者など多種多様です。多くのオーディエンスへ自身の研究を発表し、直接フィードバックを受ける貴重な学びの機会となっています。



4回生

4年間の集大成 卒業研究の作成

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となるもの。国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

基礎演習/Introductory Seminar



クラスメイトや先生と少人数で交流しながら今後の学びに必要なスキルを習得できました

大間知 晏歌 さん（GS専攻2回生）

国際問題に関するプレゼンやディスカッションを通じて、多様な視点に触れながら視野を広げることができました。少人数授業のため意見を発信しやすく、クラスメイトや先生との交流を通して、自分とは異なる価値観を尊重する姿勢も身につきました。また、プレゼンやリサーチペーパー作成を通じて、リサーチクエスチョンの立て方や論理的な文章構成など、今後の学びに必要なリサーチ・ライティングスキルを実践的に学ぶ貴重な機会となりました。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）



現実世界では解決が困難な国際紛争にクリエイティブな解決策を試すことができる

SIHITE Muhammad Elian さん（GS専攻3回生）

GSGでは、現実の国家方針に縛られることなく、実際には解決が難しい国際問題に対しても創造的で大胆な解決策を模索することができました。私はインド国防大臣役として、中国・パキスタンとの安全保障問題や海上協力に関する交渉に取り組み、外交交渉の難しさと面白さを実感しました。この経験を通して、競争ではなく協働と相互理解こそが国際社会に必要であることを実感し、より大局的な視点で世界を捉えられるようになりました。

専門演習/Advanced Seminar



ディスカッションベースで意見交換し「当たり前」を問い直す

山元 瑚子さん（GS専攻3回生）

所属している鳥山ゼミでは、ジェンダー論を通して、社会で「当たり前」とされる価値観や制度が人々に与える影響について学んでいます。特に、性別は生まれつき固定されたものではなく、社会的規範によって形作られるという考え方が印象に残っています。授業はディスカッションベースで進められ、多くの意見交換をする機会があり、自分が今まで考えたことのなかった視点や、考えに触れることができます。

卒業研究/Graduation Research



ドイツの右翼政党「AfD」の支持拡大要因と戦略を分析する

杉本 菜那 さん（IR専攻2026年卒業）

ドイツの右翼政党「AfD」を題材に、ポピュリズムの理論と支持拡大要因について卒業論文を作成しました。専門演習で積み重ねたタームペーパーを基盤に、先行研究やデータを整理しながら執筆を進めましたが、ゼミ生とディスカッションし、先生から論理構成や論文としての形式について丁寧な助言をいただくことで、論文の完成度を高めることができました。論文作成を通して、情報収集力や論理的思考力、多角的に分析する力を身につけることができました。

Courses

1回生
国際関係学の基礎を「基礎演習」「国際関係学の基礎」で学び、英語・初修外国語（または日本語）を学習します。

2回生
専門科目・地域研究科目を受講します。政策決定の場を疑似体験するグローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）にも参加します。

3回生
少人数制の専門演習がスタートし、興味を持つテーマについて研究を進めます。

4回生
専門演習での研究を発展させて、４年間の学びの集大成となる卒業論文の作成に取り組みます。

IR 国際関係学専攻

- 基礎演習Ⅰ・Ⅱ
- 英語科目・初修外国語科目
- 国際関係学の基礎（政治・法）
- 国際関係学の基礎（協力開発・経済）
- 国際関係学の基礎（文化・社会）
- データ分析入門：数字で見る国際社会
- 国際連合入門
- 平和学入門

- GSG
- 国際関係史Ⅰ・Ⅱ
- 国際政治学
- 国際行政学
- 日本外交論
- 憲法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 国際法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- 国際開発論
- ミクロ経済学
- マクロ経済学
- 国際協力論
- 地域開発論
- 国際文化・社会学
- ジェンダー論
- 多文化社会論
- 比較文化論

- 専門演習
- 安全保障論
- 国際ジャーナリズム論
- 国際経済学（貿易・投資）
- 国際経済学（金融）
- 環境経済論
- 宗教と国際関係
- 移民研究
- 東アジア研究
- 東南アジア研究
- 南アジア研究
- 中東研究
- アフリカ研究
- ロシア・ユーラシア研究
- ヨーロッパ研究
- 北アメリカ研究

- 卒業研究
- 専門演習
- 途上国政治論
- 国際政治理論
- 日本経済論
- 日本文化・社会論
- 表象文化論
- メディア論　など

GS グローバル・スタディーズ専攻

- Introductory Seminar Ⅰ・Ⅱ
- Academic Skills Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- Introduction to International Relations
- Introduction to the United Nations
- Introduction to Peace Studies
- Introduction to Law
- Introduction to Justice
- Introduction to Linguistics
- Introduction to Anthropology

- Japan and the World
- Modern World History
- Global Simulation Gaming
- Theories of International Relations
- Politics for Global Studies
- Economics for Global Studies
- Sociology for Global Studies
- International Law
- Global Political Economy

- Peace and Conflict Studies
- International Organizations
- International Human Rights
- Development Studies
- Global Environmental Issues
- International Trade and Investment
- Global Civil Society and Development
- Media and Society
- International Migration

- Professional Workshop
- Japanese Society
- Japan - United States Relations
- Foreign Relations of Japan
- Korean Studies
- Chinese Studies
- Southeast Asian Studies
- Advanced Seminar
- Graduation Research

JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

立命館大学（京都）で受講する科目（例）

- Introductory Seminar Ⅰ・Ⅱ
- Academic Skills Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- Introduction to International Relations
- Introduction to the United Nations
- Introduction to Gender Studies
- Introduction to Peace Studies
- Economics for Global Studies
- Macroeconomics
- Microeconomics
- Global Studies Research

- Theories of International Relations
- Comparative and Global Governance
- Cultural Awareness and Communication
- Race and Ethnicity in the Modern World
- Security Studies
- Japanese Culture
- Advanced Seminar
- Graduation Research

アメリカン大学（ワシントンD.C.）で受講する科目（例）

- SISU-106 First Year Seminar
- SISU-206 Introduction to International Relations Research
- SISU-212 China, Japan and the United States
- SISU-306 Advanced International Studies Research
- SISU-312 Governance, Development, and Security in Asia
- SISU-359 Environment, Conflict, and Peace
- SISU-368 Differences and Similarities in Conflict Resolution
- SISU-380 Topics in Global and Comparative Governance
- SISU-393 International Relations Theory

＊立命館大学から学修を始める際の一例。学修スケジュール、選択する分野などによって選択できる科目は異なります。

外国語の選択
（国際関係学科）

日本語を母国語とする入学者は、英語と初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語のいずれか1 語種）を、留学生は英語と日本語を、1回生時に全員が学修します。初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語）については、2回生以降、更に当該言語の学びを深めたい希望者向けに、中級・上級レベルの語学授業を体系的に受講できる「副専攻」制度や、「●●語アドバンストⅠ・Ⅱ」という科目の受講、当該言語を用いて国際関係の専門分野を学ぶ「●●語国際関係Ⅰ・Ⅱ」という科目を受講することが可能です。また、希望する学生は3回生以降、国連公用語であるアラビア語、ロシア語を履修することができます。

基礎演習
Introductory Seminar

1回生が入学直後から所属するゼミ形式の授業です。大学での学び方、研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。基礎演習のクラスは4年間を共に過ごす仲間づくりの場でもあります。担当教員だけでなく、オリターと呼ばれる先輩学生などが生活・学修の両面をサポートします。

国際関係学の基礎
Introduction to IR

1回生全員が受講する科目です。国際関係学を学んでいくにあたって「政治」、「法」、「協力開発」、「経済」、「社会」、「文化」、それぞれの分野の基礎知識を身につけながら、2回生以降どのように各分野を学んでいくか、その方法や道筋を学びます。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング
Global Simulation Gaming（GSG）

2回生全員が参加する実践型授業です。環境問題や核開発問題など年毎に統一テーマを決め、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアの役割を演じるロールプレイで国際交渉を行います。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力を磨き、リーダーシップを育む機会でもあります。

専門演習
Advanced Seminar

3・4 回生時に所属するゼミです。自分の興味ある分野を専門にする先生の下で興味・関心を同じくする仲間と学ぶ 2 年間であり、卒業研究に向けて準備をする場でもあります。国内外にフィールドワークに出かけるクラスや、「オープンゼミナール」というゼミの学びを外部の方へプレゼンテーションする企画に参加するクラスなど、ゼミによって学ぶスタイルは様々です。すべての学生がゼミ（専門演習・Advanced Seminar）に所属し、切磋琢磨しながら卒業研究の基礎となるタームペーパーを作成していきます。

Peace Studies Seminar

広島や長崎での学外研修を含む一連の活動を通じて、世界平和と国際協力の重要性について学ぶ英語開講科目です。多様な文化背景や国籍を持つ学生たちが集い、グループディスカッションやフィールドワークを行うことで、平和と協力に関する深い理解を目指します。




地域研究科目
Area Studies Courses

専門分野および研究課題を選択するとともに、具体的にその分野に関与する特定の「地域」に焦点を当て、他の地域（多くの場合、日本）と比較しながら、研究課題をさらに深く掘り下げます。その範囲は、北アメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、日本、アジア、東南アジア、中東、アフリカなど、オセアニアを除くほぼ全域に及びます。

固有専門科目
Core Program Courses

国際関係の諸側面に関わるさまざまな専門科目を設置しています。なかでも3回生以降は、比較政治論、国際協力論、多文化社会論、メディア論、International Organizations, Global Civil Society and Development, Global Sociologyといった、各分野における理論を深く学びます。これらを通して複雑なグローバル社会を総合的・立体的に把握し、自らの問題意識の醸成に繋いでいきます。

卒業研究
Graduation Research

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、自分の学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となります。卒業研究を通じて、国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。



国際関係学科では所属する専攻に関係なく、日本語・英語どちらの言語で開講されている科目でも自由に履修することが可能です。日本語基準のIR専攻の学生が英語で開講される科目をGS専攻の学生と共に学ぶことや、英語基準のGS専攻の学生が日本語で開講される科目をIR専攻の学生と受講することが可能ですので、多くの学生がクロス履修制度を活用して、自身の言語能力に応じて学びを深めています。

自分の意見を積極的に発信する力を養えた

飯島 大和さん（IR専攻4回生）



「国際関係論」「平和紛争論」「国際機関」など英語で行われる授業を履修しました。英語でのディスカッション中心の授業は非常に新鮮で、自分の意見を積極的に発信する力を養うことができました。特に、「人々は抵抗権を持つか」という議論を通して、単に答えを出すのではなく、問いそのものの前提や妥当性を考える重要性に気付かされました。

英語で議論する力、日本語で専門知識を理解する力、両方の重要性を実感

岩田 愛生さん（GS専攻4回生）



「平和学入門」「国際協力論」「国際ジャーナリズム論」などを履修しました。授業によって、ディスカッションを中心に進めるもの、専門知識や情報を深く学ぶものがあり、それぞれ異なる学び方ができたことが印象に残っています。英語で議論する力と、日本語で専門知識を深く理解する力、両方の重要性を実感しました。異なる背景を持つ学生との交流を通して、自分の価値観を見直し、多角的に物事を考え、多様性を尊重する姿勢が身につきました。

Global Education

英語科目 /Academic Skills/Intensive English

国際関係学部では、学科や専攻、学年に合わせて読む / 書く / 聞く / 話すの英語４技能を伸ばすための授業を開講しています。

国際関係学専攻の学生が1年次に受講するEnglish for International Studies Ⅰ〜Ⅳは、国際関係やそれに関連のある内容の教材を使用し、総合的な英語運用能力を修得することを目的とした科目です。2年次には、英語で国際関係学の専門分野を学ぶための力を養うために Bridge to International Studies Ⅰ〜Ⅲを受講します。入学してから2年間継続して英語を学ぶことにより、英語で開講される授業や交換留学に備えることができます。

また、グローバル・スタディーズ専攻と国際連携学科の学生は1年次に Academic Skillsという授業を受講します。これは英語で国際関係学の科目を受講するために必要なアカデミック・スキルを養うための授業です。

これらの授業はTOEFL®およびCEFRの国際基準規格を基にして能力別にクラス編成がおこなわれているため、自分のレベルにあったクラスで効果的に英語力を伸ばすことができます。

これらの英語科目に加え、主に交換留学を希望する学生に向けて、英語の苦手分野を克服することに重点を置くIntensive Englishという科目もあります。語彙と読解、スピーキングとリスニング、ライティングと文法という三つのクラスがあり、選考の上、自分の苦手分野の授業を受講することができます。



日常生活で使う英語だけでなく、学術的な英語を話せるようになりたい

金光 圭士 さん（IR専攻2回生）

1回生の春から英語開講科目を積極的に履修し、Academic Skillsでは英語での会話やプレゼン、レポート作成を学びました。また、英語科目では大量の英文読解やアカデミックライティングに取り組み、課題の多さに苦労しながらも、積極的に発言できる活気ある授業で励みになりました。留学生と母語を教え合うLanguage Exchange ProgramやTOEFL・IELTSなどの対策授業にも参加し、実践的な英語力を養うことができました。



日常的に英語に触れる環境を作り英語力向上の努力を続けています

金田 奈緒美 さん（IR専攻2回生）

授業では間違いを恐れず積極的に発言することを心がけ、分からない内容はAIも活用しながら、自分で構造や意味を説明できるまで理解を深めました。また、ABCニュースやBBCを視聴し、SNSや検索も英語中心にするなど、日常的に英語に触れる環境を作ってきました。英語力向上には自ら行動する姿勢が重要だと実感しています。英語でプレゼンする機会も多いので、コミュニケーション力や自分の考えを伝える力も向上したと思います。






バンコク国際機関研修 International Organization Training Program in Bangkok

国際関係学部では、将来、国際機関でキャリアを積んでいきたいと考えている国際関係学部の学生を対象に「バンコク国際機関研修」を実施しています。この研修では、タイのバンコクで活動する複数の国際機関（UNESCAP・UNHCR等）、国連と連携して活動を行うタイ政府機関、そして現地の大学を訪問し、これら機関の活動を視察します。

参加学生は、各機関の職員とのブリーフィング・セッションやワークショップ、現地大学の学生との国際交流を通じてモチベーションを高め、国際機関への就職に向けた計画を具体化することを目的としています。このプログラムはすべて英語で実施され、参加を希望する学生は語学力などの出願条件満たし、選考を通過することで参加ができます。



国連で働くために必要な知識や経験を学ぶことができました



森本 真彩さん（IR専攻2回生）

実際に国連機関を訪問し、職員の方々と交流したことで、国連職員には専門知識や多様なキャリア経験が求められることを学びました。また、インターンシップやボランティアなど、国連に関わる多様な道があることも知りました。国連で働く魅力と難しさの両方を実感できたので、これからの学生生活は、「世界を変える一人になること」という夢に向かって、専門分野を意識し、英語力をより一層高めるなど、学びにも学外活動にもより積極的に取り組んでいくつもりです。英語での研修に挑戦し、GS専攻・JDPの学生と将来の夢について英語で語り合えたことは、今後の自信につながると思います。

www.ritsumei.ac.jp/
studyabroad/
海外留学プログラムサイトで詳しく紹介しています

［全学募集］海外留学プログラム

留学の目的や意義は一人ひとり違うはず。立命館大学ではそれぞれの目的や状況に応じた多様な留学プログラムが提供されています。2025年度には212名の国際関係学部の学生が留学・国際プログラムに参加したほか、ボランティアやフィールドワーク等、独自に海外渡航をする学生も多数います。留学準備は国際教育センターが丁寧にサポートし、危機管理についても事前に情報提供を行います。

＊プログラム実施の有無等に変更が生じる場合があります。最新の情報は必ず募集要項にて確認してください。

長期留学プログラム ｜ 半年〜2年間

語学力を高めながら、外国語による講義を受けるプログラムや、正規の学部留学、またはそれに匹敵するプログラムで自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主要な目的としたプログラムがあります。正規の学部留学の場合は、現地の正規学生と同様に授業を受け、単位取得を目指します。多くの国際関係学部生が長期留学に参加しています。

代表的な留学プログラム

立命館・UBC GATE-EDIプログラム
留学期間：希望者は現地渡航後の選考で合格すれば延長が可能。最大2学年。
留学先：カナダ

ASEANで学ぶ国際PBLプログラム
留学期間：4ヵ月〜5ヵ月
留学先：インドネシア・タイ

交換留学
留学期間：1セメスター〜1学年
留学先：世界35ヵ国・地域、145大学・機関

1セメスター留学プログラム ｜ 4ヵ月〜6ヵ月

長期留学プログラムも視野に入れた、語学力の向上と現地での外国語による講義の受講を目的としたプログラムです。語学レベルが中級程度の方を対象に、特定のテーマについての講義やフィールドワークを行います。

代表的な留学プログラム

立命館・カリフォルニア大学デービス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム
留学期間：6ヵ月
留学先：アメリカ

立命館・ヨーク大学「イギリスで学ぶクリエイティビティ」プログラム
留学期間：4ヵ月
留学先：イギリス

立命館・ワシントン大学「持続可能な社会とイノベーション」プログラム
留学期間：4ヵ月
留学先：アメリカ



69ヵ国・地域 471大学・機関 と協定を結んでいます ＊2026年5月現在

短期留学プログラム ｜ 1週間〜6週間

語学力の向上と異文化体験を主な目的としたプログラムです。海外への渡航経験が少ない方や語学レベルが初級程度の方でも参加可能で、フィールドトリップや集中的な語学学習を通じて異文化理解を深めます。

代表的な留学プログラム

Global Fieldwork Project
留学期間：1週間
留学先：ベトナム、マレーシア、タイ 他

異文化理解セミナー
留学期間：2〜4週間
留学先：カナダ、シンガポール、アメリカ、イギリス、ニュージーランド、オーストラリア

Advanced Global Fieldwork Project
留学期間：約10日間
留学先：ベトナム、タイ

現地で学ぶ初修語セミナー
留学期間：3〜4週間
留学先：台湾、中国、韓国、フランス、ドイツ、スペイン、メキシコ

＊上記の他、海外スタディなどのプログラムも提供しています。

奨学金

立命館大学では、海外留学プログラムに参加する学生のみなさんを支援する奨学金制度があります。その一つである「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」（給付型）は、参加費用の一部の補助を通じて、みなさんの海外留学プログラムへの参加・修了を奨励しています。なお、同奨学金の内容等については、今後変更がなされる予定です。（2026年現在）





ゲストスピーカー

Guest Speakers

国際関係の第一線で活躍するエキスパートを多数招聘

国際関係学部では実社会と学部での学びのつながりを重視しており、国際社会で活躍している多様なゲストを授業等に数多く招聘しています。外交や国際問題のエキスパートや、ジャーナリスト、文化活動の専門家や、企業等で活躍している卒業生、海外大学の研究者等が頻繁に学部へ来学しますので、学生達は様々な専門家から聞いた話を自身の学びやキャリア形成に活かすことが可能です。

2025年度来訪した主なゲストスピーカー一覧

- 元外務省　事務次官
- 元外部省　外交官
- 元外部省　駐ロシア特命全権大使・ウクライナ大使
- 外務省
- 内閣府　国際平和協力本部　事務局長
- 元世界銀行 IMF開発委員会幹事
- 国連広報センター　所長
- 元国連食糧農業機関（UNFAO）事務局長補佐
- UNICEF Regional Office in Thailand
- 元国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日事務所代表
- 元国連食糧農業機関（UNFAO）事務局長補佐
- 国連開発計画（UNDP）駐日事務所代表
- 国際交流基金 国際対話部長
- 独立行政法人国際協力機構（JICA）国際協力専門員
- 元独立行政法人国際協力機構（JICA）南アジア部長
- 在アメリカ合衆国日本国大使館　政治部

など合計78名





京都で学ぶ

Kyoto



文化と歴史の街であり、
ユニークなカルチャーが息づく
大学の街である、京都。
ここにしかないキャンパス・ライフがあります。

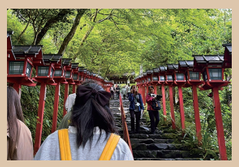
Voice



SIHITE Muhammad Elian さん
（GS専攻3回生）

京都の静かで穏やかな雰囲気に、最初は戸惑いを感じました。しかし次第に、過度な喧騒や誘惑が少ないからこそ、自分自身と向き合い、学業に集中できる環境があると実感しました。また、国際的な観光都市として留学生にも温かく、日本の四季や歴史文化を身近に感じられる点も魅力です。遠出をしなくても、情緒ある石畳の小路を散策したり、桜の花びらが川面に舞い落ちるのを眺めたりすることができます。深く、ロマンチックな静寂があり、時間がゆっくりと流れる、生きた聖域（サンクチュアリ）のようです。自然や街並みに癒やされながら学べる京都で、理想的なバランスの学生生活を送っています。





進路・就職

Careers

アジア開発銀行（ADB）駐日代表事務所
ビジネスアウトリーチコンサルタント

ADB Ventures
SEEK パートナーシップ・投資マネージャ（コンサルタント）

原 さん　2013年国際関係学部卒業



大学時代に抱いた「地域間の経済格差や機会の不平等をなくしたい」という思いを軸に、キャリアを築いてきました。立命館大学国際関係学部では、国際開発やBoPビジネスについて学び、留学やオナーズプログラム、多様な仲間との交流を通じて、世界の課題を多角的に捉える視点を養いました。また、第一線で活躍されてきた先生方のもとで、外交やビジネスを活用した国際開発について学べたことが、現在のキャリアの原点になっています。大学卒業後は、アフリカやアジアを中心に、一貫してスタートアップ支援や投資促進・ビジネス連携など、民間セクターを通じた社会課題解決に取り組んできました。現地での資金や知識へのアクセス不足によって、多くの人々が可能性を十分に発揮できていない現実を実感し、現在はアジア開発銀行駐日代表事務所およびADB Venturesにて、日本とアジア・太平洋地域のビジネスアウトリーチ・スタートアップ投資支援に取り組んでいます。立命館大学での学びや出会い、海外経験を通じて得た視点が、現在の仕事につながっています。

立命館大学卒業後、富士通株式会社勤務。JICA海外協力隊としてマラウイの農村地域にてビジネス支援に従事。英国サセックス大学開発学研究所（IDS）で修士号を取得後、タンザニアなどで社会課題解決に取り組むスタートアップや、アフリカ向けベンチャーキャピタルに勤務。JICA本部およびエチオピアにて、アフリカのスタートアップ支援専門家として活動。2024年より、国連開発計画（UNDP）アフリカ・サステナブル・ファイナンス・ハブにて、スタートアップ・中小企業支援や、日本とアフリカの投資・ビジネス連携促進に携わる。現在は、アジア開発銀行（ADB）駐日代表事務所およびADB Venturesにて、アジア・太平洋地域におけるビジネスアウトリーチやスタートアップ投資支援に従事している。

外資系コンサルティング会社
マネージャー

山田 さん　2018年国際関係学部卒業



日米で育った経験を活かし、日本と海外の架け橋になりたいと考え、投資銀行に新卒入社し、国内外M&A案件の提案・助言業務に従事。その後、戦略策定や投資先の企業価値向上等、より広範な経営課題解決に携わるため、外資系コンサルティング会社へ転身。世界各地に身を置きながら、15ヵ国以上の国籍の同僚と協働し、経営課題分析や経営陣への提言を行ってきました。大学時代はアメリカン大学へ留学し、多様な価値観を持つ相手と建設的に対話する力を培いました。帰国後は50名超の社会人とお会いし、多様なキャリアに対する理解を深めながら、自分の将来像を解像度高く描くことに注力しました。高い目標を自ら設定し、戦略的な努力によって困難な局面を何度も乗り越えた経験は、今の自分の大きな基盤となっています。将来は日本の地方や中堅企業の潜在力を引き出し、持続的成長に貢献することを目指しています。

2014年、国際関係学部に入学。学部共同学位プログラム（DUDP）により米国アメリカン大学へ留学し、2018年、両大学を卒業。投資銀行でのカバレッジ・M&Aアドバイザリー業務を経て、2022年、外資系コンサルティング会社に入社。現在は、国内外企業の戦略策定や投資先の企業価値向上支援等のプロジェクトを牽引する。

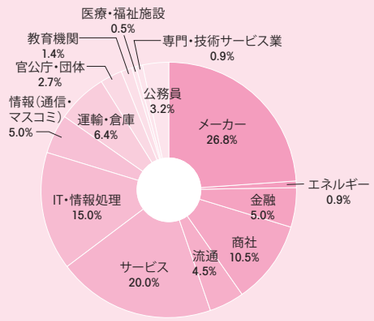
進路・就職状況

開設38年をむかえ、世界の第一線で9,000名以上の卒業生が活躍

世界に広がるネットワークを活かして、国際的な機関やメーカーなど企業の国際業務セクションに多く採用されています。
世界の有力大学院にも多数進学しています（ジョージ・ワシントン大学、オックスフォード大学、ジョンズ・ホプキンズ大学など）。

2024年度卒業生　就職先一例　　50音順

（株）IHI	（株）時事通信社	Bloomberg L.P.
アビームコンサルティング（株）	（株）シマノ	（株）ベイカレント・コンサルティング
いすゞ自動車（株）	PwCコンサルティング合同会社Strategy&	（株）ボストン・コンサルティング・グループ
（株）NTTデータグループ	ANA（全日本空輸（株））	本田技研工業（株）
（株）NTTデータDATA, Inc	大成建設（株）	丸紅（株）
（株）NTT DATA, Inc	大日本印刷（株）（DNP）	（株）みずほフィナンシャルグループ
王子ホールディングス（株）	トヨタ自動車（株）	三井住友海上火災保険（株）
花王（株）	（株）豊田自動織機	三菱UFJモルガン・スタンレー証券（株）
（株）近鉄エクスプレス	日本航空（株）	（株）メタルワン
（株）クボタ	任天堂（株）	楽天グループ（株）
KDDI（株）	野村證券（株）	国家公務員総合職（外務省）
KPMGコンサルティング	パナソニック（株）	大阪府
（株）サイバーエージェント	（株）日立製作所	



◎円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。
◎端数処理の関係で100%にならない場合があります。